1―8　甲州牛増産のための集約的採卵プログラムの確立（R2～4）

畜産酪農技術センター

背景

甲州牛の生産拡大が課題

甲州牛
H30年度
出荷頭数
389頭

生産基盤の弱体化が全国的に進行

繁殖牛頭数	平成20年	平成30年
全国	667千頭	→610千頭
山梨県	620頭	→　620頭

全国平均	平成20年	平成30年
子牛価格	386千円	→767千円

受精卵移植の活用により和牛子牛を増産

生産供給される受精卵が足りない

・さらなる供卵牛の活用
・採卵成績の向上・安定

通常の繁殖牛（八牧繋養牛：哺乳～離乳時期までに受胎）

従来技術：受精卵生産に伴い子牛の生産性が低下

供卵牛（離乳後に八牧から異動、センターに繋養して採卵）

← 2年1産＋2～3採卵 →

ホルモン処理等の影響により分娩間隔が延長し、子牛生産が半減

現在技術：採卵前後のプログラム追加で子牛生産を維持

分娩後の早期採卵技術＋採卵後の早期人工授精技術

試験内容

供卵牛を最大限に活用し、受精卵を効率的に生産する集約的な採卵プログラムの確立

①ホルモン処理技術の改良（R2～R4）

分娩後の早期採卵において、省力的かつ安定した採卵成績が得られるよう、ホルモン処理技術を改良する。

○FSH単回投与法として徐放剤（水酸化アルミニウムゲル等）の併用が採卵成績に及ぼす影響の調査

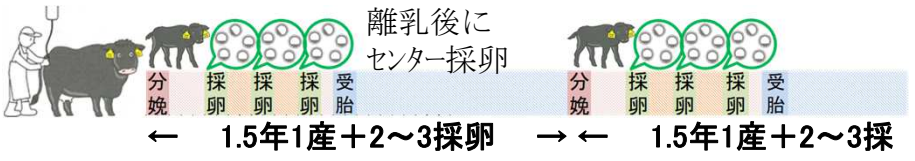
②短期連続採卵プログラムの確立（R2～R4）

採卵後に必要な卵巣の回復期間を短縮し、速やかに次回採卵できる採卵プログラムを確立する。

○黄体ホルモン製剤を用いて、採卵後の卵巣の回復期間を約35日に短縮した連続採卵処理が採卵成績に及ぼす影響の調査

期待される成果

新規技術：短期間により多くの受精卵を生産



← 1.5年1産＋2～3採卵 →← 1.5年1産＋2～3採

← 1.1年1産＋2採卵 → ← 1.1年1産＋2採卵 → ← 1.1年

◎県内供給受精卵の増加　◎甲州牛生産基盤の拡充・強化

・和牛子牛販売による酪農経営の改善

・県内産肥育素牛の確保推進

☆甲州牛の生産拡大